

第 110 回日商簿記 2 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金											
備	品	前	払	金		未	収	入	金	支	払	手	形										
建	物	前	受	金		仮	受	消	費	税	仮	払	消	費	税								
資	本	金	利	益	準	備	金	別	途	積	立	金	貯	蔵	品								
未	払	金	備	品	減	価	償	却	累	計	額	建	設	仮	勘	定	修	繕	費				
売	上	手	形	売	却	損		有	価	証	券	売	却	益			固	定	資	産	除	却	損

1. 相良商店は、建物の修繕と改修の工事を行い、代金 ¥ 5,000,000 は月末に支払うこととした。なお、工事代金のうち ¥ 3,000,000 は建物の耐用年数を延長させる支出であり、残額は定期修繕のための支出である。
2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
3. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
4. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
5. 株犬童商事は、平成 20 年度期首に、設備更新のため、保有する備品（取得原価 ¥ 1,000,000 、減価償却累計額 ¥ 500,000 、間接法により記帳）を除却した。この備品の処分価値は ¥ 100,000 と見積もられた。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	建 物	3,000,000	未 払 金	5,000,000
	修 繕 費	2,000,000		
2	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
3	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
4	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
5	備品減価償却累計額	500,000	備 品	1,000,000
	貯 蔵 品	100,000		
	固定資産除却損	400,000		

・解説

1. 固定資産の修繕に関する問題です。

修繕に関する問題は、支出した費用を「収益的支出」と「資本的支出」に分けて処理しましょう。

■収益的支出：定期修繕など固定資産の諸機能を維持するための支出 → 修繕費・修繕引当金で処理

■資本的支出：耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出 → 固定資産の増加として処理

本問はまず、問題文の「工事代金のうち ￥ 3,000,000 は建物の耐用年数を延長させる支出」から、この 3,000,000 円が**資本的支出**であることが分かるので、**建物の増加**として処理します。

★解答①・資本的支出

(借) 建 物 3,000,000 / (貸) 未払金 3,000,000

また、問題文の「残額は定期修繕のための支出である」から、残りの 2,000,000 円 (=5,000,000 円-3,000,000 円) が**収益的支出**であることが分かるので、**修繕費**で費用処理します。

★解答②・収益的支出

(借) 修繕費 2,000,000 / (貸) 未払金 2,000,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

固定資産の修繕に関する問題は、第 100 回の間 1や第 102 回の間 4、第 111 回の間 5、第 115 回の間 3、第 119 回の間 2、第 123 回の間 5、第 124 回の間 1、第 132 回の間 1、第 137 回の間 3、第 139 回の間 1、第 139 回の間 4、第 141 回の間 2、第 147 回の間 1、第 149 回の間 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

3. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

4. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

5. 固定資産の除却に関する問題です。

固定資産の除却時の帳簿価額を算定したうえで、貯蔵品の評価額との差額を除却損で処理しましょう。

■①固定資産の除却時の帳簿価額を算定する

除却時の帳簿価額は、前期末時点の帳簿価額から当期の減価償却費を差し引いて求めましょう。なお、前期末時点の帳簿価額は、取得原価から前期末時点の減価償却累計額を差し引いて求めます。

$$\text{除却時の帳簿価額} = \text{前期末時点の帳簿価額} - \text{当期の減価償却費}$$

$$\text{前期末時点の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{前期末時点の減価償却累計額}$$

まず、問題文の「取得原価 ¥ 1,000,000、減価償却累計額 ¥ 500,000」から、前期末時点の帳簿価額が **500,000 円 (=1,000,000 円 - 500,000 円)** であることが分かります。

★解答仕訳 (ステップ 1)

(借) 備品減価償却累計額 500,000 / (貸) 備品 1,000,000

次に、当期の減価償却費を計算しますが、問題文の「平成 20 年度期首に、設備更新のため」から、当期首に除却したことが分かるので、当期の減価償却費は**ゼロ**です。

以上の計算により、除却時の帳簿価額が **500,000 円 (=500,000 円 - 0 円)** であることが分かります。

★解答仕訳 (ステップ 2)

(借) 備品減価償却累計額 500,000 / (貸) 備品 1,000,000

■②貯蔵品の評価額との差額を除却損で処理

除却時の帳簿価額が判明したら、あとは貯蔵品の評価額との差額を除却損で処理するだけです。

$$\text{固定資産除却損} = \text{除却時の帳簿価額} - \text{貯蔵品の評価額}$$

問題文の「この備品の処分価値は ¥ 100,000 と見積もられた」から、貯蔵品の評価額が分かるので、除却時の帳簿価額との差額 **400,000 円 (=500,000 円 - 100,000 円)** を**固定資産除却損**で処理します。

★解答仕訳 (ステップ 3・完成)

(借) 備品減価償却累計額 500,000 / (貸) 備品 1,000,000

(借) 貯蔵品 100,000

(借) 固定資産除却損 400,000

固定資産の除却に関する問題は、第 103 回の問 1や第 111 回の問 3、第 121 回の問 5、第 135 回の問 3、第 147 回の問 1、第 148 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。今回の問題は第 121 回の問 5とほとんど同じ形式です。